NPO 特定非営利活動法人
埼玉森林サポータークラブ
コミュニケーション・ニュース
【令和５年４月１日　発行（季刊）　VOL.９３】

「新年度の所感」　会長　霜触 賢

新型コロナウイルス感染者数が減少傾向となり、政府は感染症法の位置づけを5月から第5類に移行することにし、3月からは屋内、屋外を問わずマスク着用は個人の判断にまかせられることとなりました。当クラブもそれに従って活動を行います。

但し、作業前の朝の検温チェックは参加者の体調確認のための時間とし、出欠確認時に異常の有無を申告するようにしてください。老婆心ではありますが会員の方々には安心安全な活動のためにも日頃の健康管理を十分にしていただければ幸いです。ようやく長かったコロナウイルス禍との闘いに出口が見えた気がいたします。そうした中で新年度を迎えることが出来ましたのでこれからの活動がより活発に行なわれることに期待したいと思います。

森林の整備活動＝山を作る活動はきついけれども楽しくまた、社会貢献活動に参加しているという自己充足をさせてくれるものでもあります。しかしながら、皆様ご承知のとおり山づくり活動は大変息の長い活動であり、世代を越えて続けていかなければなりません。従って活動には継続性が求められます。ボランティア団体が組織的活動を継続出来なくなる原因は主に「人間関係」「財政問題」「後継者難」「目的消失」と言われています。これをわがクラブに当てはめて考えますと、「後継者難」が喫緊の課題だと思います。クラブを牽引してきた主要メンバーの多くが、後期高齢者の仲間入りし体力的な陰りが見え、或いは、いつの間にか活動に出て来なくなったりしているのが現状です。問題は特に各フィールドの世話役にそのことが顕著だということです。最悪の場合、会員にやる気があるのに世話役がおらず活動が出来ないという事態をまねきかねません。一般会員の方にもこうした状況を認識していただきたいと思います。

幸いにしてここ数年は7～8人程度の新入会員が続いていることです。まだ持続可能な時間は残されています。

世話役の方々（理事の方々も含めて）に望みたいことは、自分の後継者をどう育てていくかを常に頭に入れていて欲しいということです。全体に目を配りながらも、誰に後を託すか、どう仕事を受けついでもらうかを考えてください。自分が倒れてからでは遅いのです。潤滑に世代交代が行われることが組織の健全の継続に繋がります。徒にしがみつくことのないようにお願いいたします。

次に新入会員の方々にもお願い申し上げます。クラブに入会された動機は様々だと思いますが、せっかくボランティア活動をしたいという意欲を持たれて会員になられたその思いを持ち続けていただきたいと思います。入会されてから”こんなはずじゃなかった”と当初のイメージと違うこともあるかもしれません。何から何までお膳立てされているわけではありません。

ボランティア活動はあくまでも、自分から進んで行動するという自主性や主体性を伴うものです。最初のうちは戸惑うことも多いと思いますが、積極的に既存会員に話し、わからないことはどんどん聞いてください。皆、顔は良くなくとも善人ばかりで意地悪な人はおりませんので安心してください。　新人さんを仲間に入れて融合するようにしてください。また、世話役も班編成作成の折には、ベテランと新人を組み合わせるなどの工夫をお願いします。ともに支え合うという社会性や連帯性もボランティア活動の柱でもあります。

こうした繋がりのなかで、技術や伝統、森林への思いが受け継がれていくものと思います。
「山を元気に」「山で元気に」の合言葉で今年度も皆さんで埼玉の森で頑張っていきましょう！

活動記録（2022年12月・2023年1月・2月）

月　日	曜日	フィールド	内容	参加数
12月3日	土曜日	第2回理事会	さいたま共済会館505会議室	15
12月3日	土曜日	滝ノ入の森	間伐	中止
12月4日	日曜日	ときがわの森	枝打ち・間伐	18
12月7日	水曜日	鴻巣・赤城屋敷林	枝払い整理	6
12月10日	土曜日	浄国寺の森	林内整理	12
12月11日	日曜日	越生ふれあいの里山	間伐	15
12月17日	土曜日	黒山の森	間伐・林内整理	13
12月18日	日曜日	くるみ小屋	小屋管理事業	16
12月18日	日曜日	緑の森博物館	落ち葉掃き	7
12月24日	土曜日	笠幡の森	枝条整理・笹刈・下刈・倒木整理	12
1月3日	火曜日	くるみ小屋	安全祈願	14
1月4日	日曜日	緑の森博物館	安全祈願	17
1月8日	土曜日	越生ふれあいの里山	安全祈願・林内パトロール	9
1月14日	土曜日	笠幡の森	枝条整理・笹刈・下刈・倒木整理	13
1月15日	日曜日	くるみ小屋	周辺整備	9
1月17日	火曜日	世界無名戦士の墓公園	梅園小　支援活動	11
1月21日	土曜日	江戸屋弘東園	落ち葉掃き	19
1月21日	土曜日	緑の森博物館	協働作業	2
1月22日	日曜日	緑の森博物館	間伐・除伐	20
2月12日	日曜日	越生ふれあいの里山	間伐・除伐	19
2月18日	土曜日	第3回理事会	埼玉会館6C会議室	16
2月19日	日曜日	くるみ小屋	間伐（広葉樹）	12
2月23日	木曜日	鴻巣・赤城屋敷林	支障木伐採	5
2月26日	日曜日	緑の森博物館	間伐・除伐	19

自然のたより(61) オドリコソウ

春になると一斉に草花が地面を覆い始めます。ホトケノザ、ナズナ、タネツケバナ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、これらは背丈が低く畑や空き地を埋め尽くします。ホトケノザ、ナズナ、タネツケバナは史前帰化の植物ですが、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウは明治以降の外来種です。「ヒメ」のつかない元祖オドリコソウは昔からの在来種ですが、今ではあまり見られなくなりました。特に土地の改変が著しい都会では探すのも大変です。川越市の例では「(仮称)　川越市森林公園」計画地の一画、水上公園の端にひっそりと群落があるのみです。

オオイヌノフグリは在来種のイヌノフグリに因んで名づけられましたが、元祖のイヌノフグリはほとんど姿を消し、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されています。オナモミも絶滅危惧Ⅱ類（VU）ですが、外来種のオオオナモミは随分はびこっています。もともと似たような植物で生息地が競合するため、在来種が外来種に駆逐され、相次いでレッドデータの仲間入りをしている例は数多くあります。川越市では5年間の市民による生き物調査の報告があり、植物では30％近くの種類が外来種でした。

今や、植物だけでなく広く外来種は定着し、排除することは困難です。このような中でオドリコソウのようにひっそりと生き残っているのをみると、守ってあげたいと思えますね。〈No.647　賀登　環　　川越市〉

保護しているオドリコソウ群落

オドリコソウの花

外来のヒメオドリコソウ

■1月3日（火・祝）～1月8日（日）活動地の3ヶ所で安全祈願が行なわれました

・緑の森博物館では4日におこなわれました。

糀谷八幡神社にて

・越生では8日におこなわれました。

虚空蔵尊にて

安全と今後の活動を踏まえたパトロール
虚空蔵尊～六角ベンチ～だいこう寺跡「ふれあいの里山」看板～デューダ松林～こんぴら様奥の院を経て虚空蔵尊にてしっかり皆で「安全祈願」2時間30分ほどの山歩き　ミーティング。樹高の高い木が多く近年「かかり木」が当たり前になっており作業が難しくなっています。オークネット支援の間伐地の場所ぎめの参考にもなり気持ちの良い一日となりました。
〈No.630　鈴木久代　越生町〉

・クルミ小屋の活動地では3日に行なわれました。

■1月14日(土) 川越市「笠幡の森」

年末に続いてアズマネザサなどの下草刈りと落葉に埋もれた伐採木や枯れ枝整理をした。作業が終わると見通しがきく明るい林になった。青空から陽光が差す。選木テープで残した赤いマンリョウやムラサキシキブの実が彩りを増して見えた。当地は川越市西部の新興住宅に隣接した平地林で、林の真ん中を南北に貫く細道と北側の「さつき通り」が、霞ケ関西小学校の通学路になっている。崩れた土砂が歩道の半分を塞ぐ場所もあったが、きれいに取り除いて登下校の安全を図った。世話役の小坂博美さんに教えて頂いたのだが、当地は元々薪炭用の雑木林だったが、薪が不用になってヒノキを植えた。ところが育った時は木一本がタイコン一本程の値段に暴落し放置された。暗い林では痴漢被害も多かった。会が保全活動を始めて10年。見違える姿になったようだ。細道脇にはコナラやサクラの大木がある。ナラ枯れにやられて伐採しなければならない。個人所有の林で難しいだろうが、コナラやクヌギの雑木林が蘇えれば、カブトムシやクワガタの見つかる子どもが喜ぶ場所になるだろう。　〈No.829　大慶順一郎　久喜市〉

■1月17日（火）越生町「梅園小植樹支援」

世界無名戦士の墓に近い新さくらの山公園で梅園小5年生16名、6年生15名計31名参加の植樹支援活動を行いました。午前中はクラブ員と川越農林振興センター3名が加わり植樹予定地の整備を実施、生徒が唐鍬を使い掘りやすくなるよう掘り起こし埋め戻す作業を行いました。午後梅園小5年生、6年生31名到着後、植樹授業開会式ではサポータークラブ小室専務が植樹手順、方法を講義し実地植樹指導も行い、ヤマザクラ15本の植樹を終了しました。生徒の植樹終了後、クラブ員が鹿防護ネットを設置し植樹支援は完了しました。
〈No.718　片野健一　川越市〉

※次頁に続く

※前頁梅園小植樹支援から続く

開会式

植樹の
やり方
指導

植樹作業
開始

植樹作業

お疲れ様
でした

■1月21日（土）三芳町「江戸屋弘東園」での活動

快晴のもとクラブ員19名、地元環境保護団体69名、総勢88名で落ち葉掃き活動が行われました。朝礼の際土地所有者の伊東さんから「三芳町の循環型自然農法は、先般の日本農業遺産の登録に続いて、近々世界農業遺産に登録される予定です」と言う挨拶を頂きました。雑木林の落ち葉を集め堆肥にし、畑に散布して肥料とする。これがこの地で300年続く循環型自然農法です。クラブではこの活動に賛同して20年位前から毎冬に協力してきました。今年も作業は順調に行われ予定通り午前中に終える事が出来ました。終了後は江戸屋弘東園さんから農林大臣賞受賞の「サツマイモ」をお土産に頂き帰途に就きました。

〈No.654　沢田　正　川越市〉

■3月5日（日）ときがわ町「ときがわの森」

ときがわの森の間伐・枝打ちの活動が、20名もの参加で開催されました。朝方は少々寒かったが、日中は暖かくなり、作業には快適な気温となりました。新人7名は一本梯子、安全帯を持っての枝打ち作業。私たち3班はヒノキの間伐を行いました。私の班では最後の一本として、途中から3本に分かれたヒノキを伐採しました。これが大変でした。思ったとおり、天端から他のヒノキにジャケツイバラのツルが巻き付いており、枯れてはいたが、4人ではロープを引いても倒すことができず、ちょうど隣で作業していた班の助けを求め、8人かかりで倒すことができました。最初は倒すだけにしようと思っていました。が、サポータークラブのメンバーはやはりさすがで、棘に巻き付かれながらも、後処理まできちんとやる習慣には感心しました。こんな危険な枝は、ヒノキの枝と別にし1mぐらいに小さくカットして一つの山として積んでおけばいいと思いました。もう2度とさわりたくない枝です。ランチのクリームシチューが、トゲトゲの気分を癒してくれ、大変おいしくいただくことができました。皆さん参加お疲れ様でした。

〈No.522　岡田豊国　東松山市〉

拠点活動レポート

越生ふれあいの里山活動（越生町）

■令和5年1月8日（日）虚空蔵尊に山林作業の安全祈願と活動地A・B・C地区の山林パトロールを行いました。活動地A・C地区については間伐木や除伐対象の範囲の確認を行いクラブ員の意見を聴収しました。

■令和5年1月17日（火）梅園小植樹体験支援
梅園小5年生16名、6年生15名計31名世界無名戦士の墓近くの新さくらやま公園でヤマザクラ15本の植樹を行いました。植樹についての講義では、植樹手順・方法を説明し植樹実地指導を行い無事終了しました。

■令和5年2月12日（日）越生ふれあいの里山A・D地区の除伐作業を行いました。A地区は新入会員の除伐教習を兼ねて除伐作業を実施しました。D地区は景観整備を伴った除伐を行いハイカーが通る通路側は明るく整備されました。またD地区は5月に予定しているオークネットの間伐体験予定候補地として3月4月の活動で準備整備を行う予定です。

〈越生ふれあいの里山担当　№718　片野健一　川越市〉

緑の森活動（入間市　緑の森博物館）

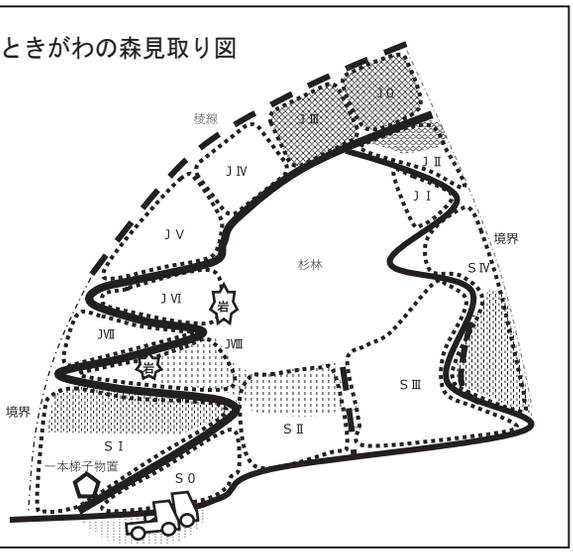
■1月4日（水）　安全祈願（糀谷八幡神社）と活動地巡回。糀谷八幡神社にて毎年恒例の安全祈願を行いました。霜の降りる寒い朝でしたがコロナ禍を吹き飛ばす勢いで、クラブ員17名、博物館から2名が集まりました。宮司さんからは干支の卯（ウサギ）にちなみ、さらに飛躍・発展できる年になるようお話しがありました。祈願の後、活動地を巡回して20周年記念植樹地の雑木林広場に登りました。次回活動予定の所沢地区人工林へ回り、林床整備、間伐する木の選木等、事前準備から始める必要があることを確認しました。

■1月22日（日）　所沢地区人工林
4日の巡回の際に、コロナ禍で活動休止していた間に林内が荒れ模様になっていることを確認したため、間伐、除伐の予定を変更し事前準備から始めることにしました。動力班は一部刈払い機を使用し、多くの参加者は手鋸作業で灌木や下草を除伐し林林内整備を進めました。また、間伐伐倒する木を選し、作業地区を区別できるよう色別にマーキングしました。次回からはチェンソー作業による間伐を予定していますが、高く伸びた木や傾いたかかり木もあり、伐倒作業には十分な注意が必要です。
〈緑の森博物館担当　№768　武藤光盛　所沢市〉

ときがわの森活動（ときがわ町）

ときがわの森は、冬はお昼になっても貯木場に陽が当たらず、凍えてしまいますので、1、2月は活動ナシです。2023年度活動予定の概略を紹介します。（見取り図参照）
2023年4月以降、手作業班は、3月まで枝打ちした隣のSⅣエリアの手鋸間伐を予定しています。指導をお願いする方に、貴重な時間を割いて頂くことになるわけですから、継続的に参加されるようお願いします。尚、手作業参加者が少ない場合（2～3名？）は、機械作業班の補助（ロープセットや枝整理等）をして頂くことになるかと思いますので了解願います。
機械作業班は、夏までに現在進行中のＳＩ、ＳⅡ上、JⅧ右エリアの1次間伐を終了させたいと思っています。7月末、全員除伐の後、夏のイベント！10月、全員枝打ち実習！（ＳＩエリア）秋から冬、手作業班は1次間伐が終わったエリアの枝打ちをＪＩから再開します。機械作業班は、残る＜とりわけ密になっている箇所＞JⅢからJ0に向かっての間伐を予定しています。（林床が暗い為か、下層植生は少なく、除伐は不要と思っています。）樹々がいっぱいに枝葉をのばし、全体が生き生きとした林を目指し、「現時点、樹と樹の間は3～4mは空けたいナ。」とは思ってはいるのですが、　　なかなかですネ。
〈ときがわの森担当　No790　山根義之　朝霞市〉

ときがわの森見取り図



連載記事

新入会員発言

昨年11月より入会しご指導をいただいています。何か社会貢献活動をしたいと思い、まずはさいたま緑のトラスト協会の里山保全活動から始めてみました。そのうちに、日本の山林は昔から、山里で暮らす人々が手入れをすることで維持されてきたこと、住民が共同で山林を維持する作業は生活の一部で当たり前であったこと、現代では手入れの手間とコストが経済的に見合わないとされ山林は放置されがちなことなどを初めて知りました。自分も技術を身につけ、山林のあるべき姿を取り戻すことに貢献したいと思ったことが入会の動機です。昨今は山林資源が、SDGsという新しい観点から見直されつつあることも知り、俄然意欲が湧いてきました。よろしくお願いいたします。　〈No.828　南　浩治　春日部市〉

シリーズ　薪ストーブの魅力と暮らし

第41話『薪ストーブいろいろ』

一口に薪ストーブと言っても、材質、性能、構造、使い方や楽しみ方によっていろいろな選択があります。価格で言えば数千円から百万円を超えるものまで大きな幅があります。暖かさという点だけで比較すると、ストーブのサイズ（表面積）が同じであれば数千円のモノも百万円のモノも差はないように思います。ウソでしょ！？と思われるかも知れませんが、では何に差があるかと言えば、耐久性（安いのは数年、高いのは数十年）、快適性（安いのは煙の漏れや逆流に苦労する、高いのはメンテナンスも含め使い勝手が快適）燃焼性（安いのは焚火と似た燃え方で煙や臭いが多い、高いのは技術に裏付けされた燃焼で煙や臭いが少ない）、消費性（安いのは燃焼のコントロールが難しい＝薪を多く使い燃費が悪い、高いのは少ない薪で効率良く暖が取れる＝燃費が良い）、趣向性（安いのは火を使うことが目的、高いのは火を楽しむ付加価値が多い）、といったあたりの差になるでしょうか。いくらでも薪は充分にある、近隣への煙や臭いの配慮は無用、細かいことは関係なく好きに燃やせるような環境であればどんなストーブでも申し分なく使えると思います。反対に、その逆の使い方を求めるならそれなりの検討と選択に悩み楽しまれると良いと思います。

〈No.30　木島　浩　寄居町〉

シリーズ　森林の不思議

雑木林の昆虫−春の白い蝶はモンシロチョウ？−

春になると畑や雑木林周辺では白い蝶が飛び、モンシロチョウ（図1左上）が目につきます。畑や野原など明るい場所の蝶で、その幼虫はキャベツが大好きで、英語ではCabbage WhiteやCabbage butterflyと呼ばれます。他にも白く見える蝶がいます。

雑木林などの林縁など日陰まじりの場所を好む、スジグロシロチョウ（図1右上）は少し大きく、目のいい人には翅脈に沿った黒い条がわかります。また、オスを捕らえると独特な匂いがします。

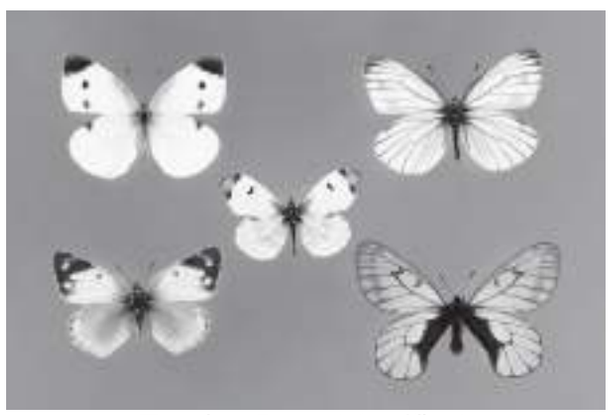


図1　春に見られる白い蝶5種

一回り小さな白い蝶にツマキチョウ（図1中央）がいます。同じ高さを保ちながら直線状に飛ぶので、ふわふわ上下しながら飛ぶモンシロチョウと区別できます。後翅裏面が特徴的な草ずり模様です。また、前翅先端が鋭くとがり、その部分のオレンジ色がオス、白色がメスです。春一回だけ出現し関東地方の自然豊かな場所では四月がピークで白い蝶の中では最も個体数が多いようです。

大きさも形がほぼ同じで、より素早く飛ぶモンキチョウがいます。ほとんどは黄色い蝶なのですが、メスにはオスと同じ黄色と、白色（図1左下）の二型があります。黄色と白色の蝶が舞っていたらモンキチョウのオスとメスです。

五月になるとアゲハチョウ科の白い蝶、ウスバシロチョウ（図1右下）が舞います。かつては八高線の西側でしか見られませんでしたが、最近では入間市や日高市、狭山市、東松山市など八高線の東側にも分布を広げています。アゲハチョウ科なのでウスバアゲハとも言いますが、ヒラヒラと優雅に飛ぶ姿はウスバシロチョウが相応しいと思います。

気になった昆虫がいたら写真を撮ることを勧めます。写真でわかる昆虫も数多くいるので、新たな発見があるかもしれません。なお、標本写真は築比地秀夫氏からの提供です。

〈No.722　利根川雅実　さいたま市〉

事務局からのお知らせ他

◇新会員の御紹介

830　泉谷　康幸さん（久喜市）
831　松永　紘乃さん（加須市）
832　福田　俊明さん（さいたま市）

◇新年度会費及び動力保険の納入のお願い

会費：3千円　　動力保険：2千円
※今年度新たに動力保険されたい方は、早急に事務局に御連絡ください。

◇みどりの募金に御協力ください

5月4日（みどりの日）街頭で『みどりの募金』
JR北朝霞駅付近　8時30分集合

◇通常総会の開催

6月17日（土）　埼玉会館3C会議室
研修会14時から、総会15時からです。
別途通知予定です。

◇今後のマスク着用について

3月13日から、新型コロナウイルス感染予防のためのマスク着用が解除となりましたことを受け、当会においては、マスク着用の有無については会員各自の判断に委ねることとします。
また、活動当日朝の検温は参加者の体調確認の意味からも大切と判断し、今後も継続致しますので御協力ください。

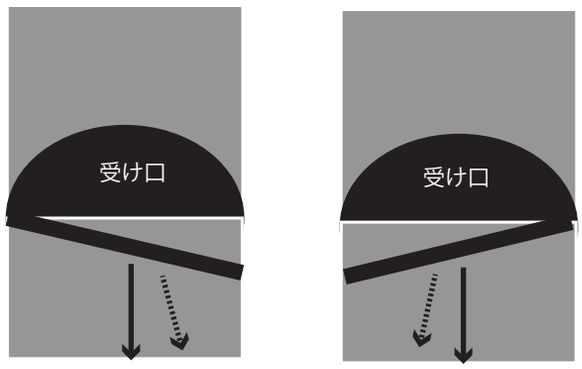
クラブ員の声

3月5日（日）はときがわの森の活動に参加しました。久しぶりの伐木作業でした。作業の際度々掛かり木してしまい処理に手こずりました。家に帰りその日の反省をしました。その結果以下の点が反省点となりました。
1.伐木対象木が比較的細い（直径15cm程度）ので掛かり木しても処理は簡単と考え安易な気持ちで作業した。
2.伐木の際高い位置にロープを掛けてテンションを掛けて作業するので伐木方向に正確さは要求されない（ロープで引いてあるので掛かり木しないで倒せると思い込んでいた）。この2点から受け口作りと追い口作りに慎重さを欠いた為、掛かり木を連発させ仲間の皆さんに余計な手間を取らせてしまったのです。次回は右記の点を肝に銘じ伐木作業を行いたいと思います。
尚、クラブ員から伐倒方向は出来るだけ山側が良い。何故なら掛り木した場合足払いをかけて引き易いからとの事ですが、枝払い、玉切りで上下動を要求される為真上ではなくやや斜め上が良いとの決論に至りました。

（No.654　沢田　正　川越市）

■受け口の底辺が水平でない場合（傾斜の低い方に倒れる）

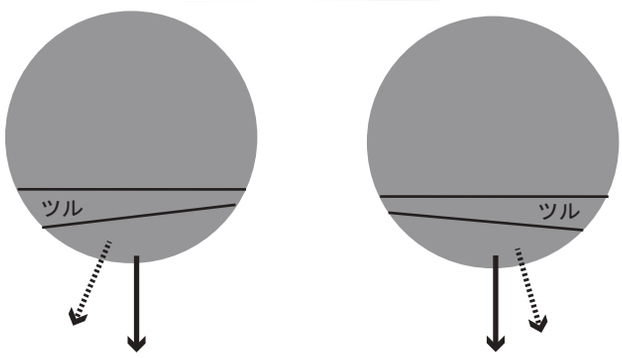
材を真横から見た状態



実線が伐倒予定方向・破線が実際に倒れる方向
※受け口を作ったら少し離れた所から水平を確認する

■ツルの幅が平行でない場合（ツルの厚い方に倒れる）

材を真上から見た状態



実線が伐倒予定方向・破線が実際に倒れる方向
※伐木が終わったら切り株でツルを確認する事

編集後記

80才を越えると体のあちこちに不都合なことが起きてくる、もちろん頭のほうも忘れ物、落し物が増えた。こんな事からクラブのイベントや支援活動への参加が少なくなってきたがご近所からはお誘いが増えて来た。ラジオ体操、助け合いの会、写真クラブ等など。しかしまだ老人クラブには入りたくないナア。

（No.317　菅家征史　川越市）

「クラブ員の声」欄への投稿を２００字程度でお願いします。

■入会のご案内

私達の活動は、多くの人々のご協力によって支えられています。ご賛同・ご支援を宜しくお願いします。
・入会金：個人　2,000円／団体　10,000円
・年会費：個人　3,000円／団体　10,000円
・賛助会員：年会費一口　5,000円

活動スケジュール（2023年4月・5月・6月・7月）

月　日	曜日	フィールド	活動内容	集合場所
4月1日	土	黒山の森	間伐:機)間伐	越生町黒山771　現地
4月2日	日	ときがわの森	間伐: 手)間伐　機)間伐	ときがわ町西平　越瀬橋　手前　左側
4月9日	日	ときがわの森	間伐: 手)間伐　機)間伐	ときがわ町西平　越瀬橋　手前　左側
4月15日	土	笠幡の森	笹刈り及び枝条整理、倒木整理	川越市笠幡1953　林内通路脇
4月16日	日	くるみ小屋	広葉樹伐採　手)玉切り運搬　機)間伐	神川町上阿久原　くるみ小屋
4月16日	土	越生ふれあい里山	間伐: 手)間伐　機)間伐	虚空蔵尊　越生町上野2260先を右折　さくら公園駐車場
4月23日	日	緑の森博物館	下草刈り　手)、機)共	入間市宮寺889－1　緑の森博物館
5月3日	水	北朝霞駅前	緑の募金活動（街頭募金）	北朝霞駅前
5月6日	土	笠幡の森	笹刈り及び枝条整理、倒木整理	川越市笠幡1953　林内通路脇
5月7日	日	ときがわの森	間伐: 手)間伐　機)間伐	ときがわ町西平　越瀬橋　手前　左側
5月13日	土	鷹ノ巣の森	下草刈り:　手)、機)共	小川町鷹巣680　鷹ノ巣の森　現地
5月14日	日	越生ふれあい里山	オークネット準備　草刈り・除伐	虚空蔵尊　越生町上野2260先を右折　さくら公園駐車場
5月20日	土	越生ふれあい里山	オークネット森づくり支援	虚空蔵尊　越生町上野2260先を右折　さくら公園駐車場
5月21日	日	高谷の森	下草刈り、苗固定	小川町高谷八幡2737　総合グランド入口左折　すぐ
5月21日	日	くるみ小屋	くるみ小屋記念行事	神川町上阿久原　くるみ小屋
5月27日	土	黒山の森	間伐:機)間伐	越生町黒山771　現地
5月28日	日	緑の森博物館	下草刈り　手)、機)共	入間市宮寺889－1　緑の森博物館
6月4日	日	ときがわの森	間伐: 手)間伐　機)間伐	ときがわ町西平　越瀬橋　手前　左側
6月10日	土	鷹ノ巣の森	下草刈り:　手)、機)共	小川町鷹巣680　鷹ノ巣の森　現地
6月11日	日	龍ケ谷の森	草刈り・植栽木整理	越生町大字大満257　大満農村広場
6月17日	土	定期総会	定期総会	埼玉会館3C会議室
6月18日	日	くるみ小屋	道普請・草刈り:　手)、機)共	神川町上阿久原　くるみ小屋
6月18日	日	高谷の森	下草刈り:手)ツボ刈り、苗固定、機)下草刈り	小川町高谷八幡2737　総合グランド入口左折　すぐ
6月24日	土	笠幡の森	笹刈り及び枝条整理、倒木整理	川越市笠幡1953　林内通路脇
6月25日	日	緑の森博物館	下草刈り:　手)、機)共	入間市宮寺889－1　緑の森博物館
7月1日	土	ときがわの森	除伐: 手)、機)共	ときがわ町西平　越瀬橋　手前　左側
7月2日	日	カタクリの里	下草刈り　手)、機)共	神泉カタクリの里　グーグルマップ検索
7月9日	日	越生ふれあい里山	除伐　手)、機)共	虚空蔵尊　越生町上野2260先を右折　さくら公園駐車場
7月16日	日	くるみ小屋	水道メンテナンス	神川町上阿久原　くるみ小屋
7月23日	日	緑の森博物館	下草刈り　手)、機)共	入間市宮寺889－1　緑の森博物館
7月30日	日	ときがわの森	除伐: 手)、機)共	ときがわ町西平　越瀬橋　手前　左側

※活動予定は、中止や変更することがあります。その節は一斉メールにてお知らせいたします。締め切り後に参加する時や、申込んだが当日欠席する時は事務局まで連絡を！直前の当日欠席は世話役まで連絡を！
※集合時間は8時30分です。支度をして集合して下さい。

拠点フィールドのご案内

■ときがわの森（ときがわ町）
毎月第１日曜日活動（担当：山根義之・岡田豊国）

■越生ふれあいの里山（越生町）
毎月第２日曜日活動（担当：片野健一・鈴木久代・樽石亜由美・菊池修一郎）

■緑の森博物館（入間市）
毎月第４日曜日活動（担当：伊東喜尋・武藤光盛）

埼玉森林サポータークラブ・コミュニケーション・ニュース　２０２３年４月１日発行（年４回発行）

■発行：特定非営利活動法人（NPO法人）
埼玉森林サポータークラブ

■発行責任者：霜触　賢　■編集リーダー：沢田　正

■編集スタッフ：木島　浩・北村　博・梶田　力・小室正人・利根川雅実・香取由美・星　直次郎・樽石亜由美・菅家征史・小坂博美・伊東喜尋・片野健一・菅谷　榮・岡田豊国・平井崇詞・藤井俊文

■事務局：埼玉県さいたま市浦和区高砂3-12-9
農林会館B1　〒330-0063
TEL. 048-814-2770
〈事務局開設日：月・水・金〉１０時～１５時

■事務局メールアドレス
info@shinrin-supporter.org

■ホームページアドレス
http://www.shinrin-supporter.org/